

# 荒川のJR荒川橋梁東西(飛鳥自動車教習所) をスーパー堤防にする計画

## 川口地区高規格堤防整備事業説明会開かれる

10月29日に高規格堤防(通称スーパー堤防)整備事業の説明会が行われました。会場には今回の「飛鳥工区」周辺住民のみなさん30名程が参加し、荒川河川事務所から説明を受けました。荒川の新堤防事業については、昭和46年から事業を開始し、平成8年からは新堤と旧堤とを一体化する高規格堤防整備事業が推進されてきました。

現在は南中・舟戸幼稚園・舟戸小・善光寺がスーパー堤防の上に建設されていますが、それ以降西側についての計画は進んでいません。今回は飛鳥自動車教習所との共同事業として、「飛鳥工区」主に線路の東側の教習所が堤防の上に建設されるという工事となります。それに合わせて、JRの荒川橋梁下の堤防については擁壁などで高さを確保するなど暫定的な対策を検討していくとしています。工事期間は来年着工で令和6年度末までを予定しています。

参加者からは工事期間中の振動の問題や工法について、また堤防の北側における影響など、具体的な内容についても聞きたいという声が出されました。今回の説明では簡単な工法の説明と、線路下についても今後具体的な検討をするにとどまっており、注視が必要です。



2022年11月6日 No.1678

日本共産党川口市議会議員団  
川口市前川2-28-10  
TEL.267-8411 FAX.261-3528  
<https://www.kawaguchi-jcp.jp/>

## 知っ得情報

# 特定健康診査を受けましょう

**問** 特定健康診査はだれでも受けられるのですか？

**答** 「特定健康診査」は生活習慣病予備軍を減らし、将来の医療費負担を減らすことがそもそもの目的ですが、40歳～74歳の方を対象に生活習慣病のリスクを知るために加入する保険ごとに実施する健診です。

**問** 川口市では、どのように実施していますか

**答** 川口市では、国民健康保険に加入されている40歳～74歳のかたを対象に各年度1回受診できます。今年度から費用も無料になり、6月1日～2023年2月28日まで、市内の指定された医療機関で、血液検査や尿検査、心電図検査等の検査をおこなっています。

**問** がんの検査などもっと幅広く検査できないのでしょうか。

**答** 川口市の国民健康保険では「人間ドック」を実施しています。これは30歳～74歳の方を対象に特定検診の内容に加え、胸部レントゲン検査、胃・食道などの内視鏡検査や肝炎ウイルス検査ができ、64歳までは9900円、65歳からは6600円で受診できます。

また、国民健康保険以外の保険のかたも川口市の「がん検診」が受診できます。がん検診は、川口の保健センターから受診のご案内が届いています。特定健診と肺がん検診や胃がん検診・大腸がん検診などを組み合わせることもできます。

**問** 生活習慣病のリスクが高くなったら、病院を受診すればよいのですか

**答** 健診の結果を、医師から説明を受け、結果により保健指導が必要な方は、「特定保健指導」の案内が送付されます。生活習慣の改善などの面接や支援を受けることができます。

お問い合わせ

川口市役所

国民健康保険課(保険係)

電話 048-259-7916(保険係直通)

# 誰もがくらしやすいまちに

令和4年度川口市バリアフリー基本構想推進協議会開催

10月28日メディアセブンにおいて、バリアフリー基本構想推進協議会が開催されました。この日は「川口駅周辺まちづくりビジョンの概要について」説明の後、川口駅周辺を歩いてみようということで、西口・東口のペDESTリアンデッキからエレベーターの場所等、委員のみなさんと職員で現地を視察し、意見交換がメディアセブンで行われました。

この協議会は、学識経験者、高齢者、障害者、商工関係団体、その他公募の方などで構成されています。委員のみなさんからは意見交換で忌憚ない意見が出されていました。川口駅周辺の現地視察では、点字ブロックが必要な場所に無い、また規格にあっていない。エレベーターの位置が分かりづらく、誘導するマークも小さく見えづらい。トイレがベビーカーや車いすでは使いづらい。東口のバスロータリーの道路が狭い、ベンチなど休憩施設が無く、屋根が無い場所は困る。エレベーターが方角によっては民間施設内にしかなく24時間動いていない。終電過ぎて、東口に帰ろうとしたら西口のエレベーターが動いていなくて、行くことが出来なかった。川口駅の案内は、マイクでしゃべっていても耳が聞こえないため、電光掲示板など目で見える機能が欲しいなど、バリアフリーとは言えない現状が様々出されました。

また、西口公園では階段のデザインが錯覚を起こさせるデザインとなっているとの委員長からの指摘もあり、バリアフリーの建築デザインの共通ルールの必要性や、「触知図」の設置についても話されました。

“私たちの声を聞いてほしい”それは障害者に留まらず、誰もがくらしやすいまちには重要なことです。当事者が感じたことを街の構造に生かしていく。それこそが、市民参加のまちづくりであり、この協議会のような場の重要性を実感しました。



# 埼玉県の供給水20%値上げのうごき

—埼玉県営長期ビジョンから学ぶ—

10月30日(日)14:00～生涯学習プラザにおいて、「水道料金値上に反対する川口市民の会 新署名スタート集会」が行われ、日本共産党川口市議団も参加しました。市民の会共同代表の開会あいさつ後に、村岡まさつぐ県議会議員による「埼玉県の供給水20%値上げのうごき」の学習講演が行われました。



現在、県営水道は給水人口722万9千人(全国2位)、施設能力は2,665千 $m^3$ (全国1位)、年間送水量も全国1位であり、県内の水道は荒川水系と利根川水系の水が供給されているとの事です。因みに川口市の水道は、大久保浄水場(荒川水系)と新三郷浄水場(利根川水系)で構成され、県水の購入は市全体の給水量の86.1%となっています。

尚、県が八ッ場ダム建設事業(群馬県)、霞ヶ浦導水事業(茨城県)や思川開発事業(南摩ダム)に多額の負担金があり、経営に負担を強いられていることなどの説明がありました。こうした背景のもと、県議会3月定例会の予算特別委員会で日本共産党の秋山もえ県議が、企業局経営5か年計画において収支が厳しくなる可能性が高いため20%の料金引き上げにより、収支の均衡を図るシミュレーションが行われたことを指摘したことにより、値上げのうごきに警戒感を持ちました。

県水の値上げがあれば当然、川口市の水道も値上げとなるでしょう。市民の会では学習を重ねることにより、提案することも含めて新署名をスタートさせようとの意見が出されました。また、こうした状況を知らない市民の方が多いのが現状であり、街頭からの宣伝やスタンディング・アピールにより多くの市民からご意見・ご要望を伺おうという話などが出て、有意義な集会となりました。